

The Research Bulletin of Health and Sports Sciences

Vol.9 No.1 2010

CONTENTS

Special Reports : My Experiences in College Physical Education	
Silent Majority	Matsuhiko Irikawa 3
The Memories of Student Teaching	Hiroshi Oshima 7
Physical Education in the Correspondence Division: Summer Schooling	Ryuji Okada 5
My Coaching Experiences in the Kinki University Basketball Team	Shoshin Kamuro 9
The First Four Years	Kazumasa Kumamoto 11
Everyone, Come Here!	Kazunori Sagawa 13
Physical Education and Life Work	Norio Takashima 15
Naginata as the University Physical Education	Hikaru Tanaka 17
Personal Narratives of Athletes	Tadao Tsuda 19
Diversity in Physical Education	Airi Naoi 23
Tell the Charm of Sport	Tokuma Matsunami 25
Research Materials	
Basic Research Regarding Fall Prevention in the Elderly — Effect of the Walking Speed on the Toe-height in the Younger Women—	Hikaru Tanaka, Ryuichi Kamuro, Kazunori Sagawa, and Takafumi Fuchimoto 29
Research on Smoking in University Athletes	Tadao Tsuda and Akiko Higashiyama 37
Practice Report	
Program for Sport Management of Flying Disc Competitions: (1) Ultimate Flying Disc Competitions Co-hosted with University Students	Hiroshi Oshima 49
Materials	
Report of the Public Lecture "Health and Sports Class 2009"	Norio Takashima 61
Activity Report of Faculty Development	Tadao Tsuda 63
Report of the 6th Symposium of International Judo Federation	Ryuji Okada 66
Report of the Institute of the University Physical Education and Sports	Kazumasa Kumamoto and Tokuma Matsunami 68
Annual Report of the Institute of Health and Sports Science (Jan-Dec/2009)	70

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要

第9巻 第1号 (通巻 第9号) 2010

IHSS
Kinki Univ.

近畿大学
健康スポーツ教育センター研究紀要

第9巻 第1号

2010

〈特集 私と大学体育〉

サイレント マジョリティ	入川 松博 3
教育実習の思い出	大島 寛 5
通信教育: 夏季スクーリング	岡田 龍司 7
近畿大学体育会バスケットボール部の指導を振り返って	禿 正信 9
最初の四年間	熊本 和正 11
集合!	佐川 和則 13
大学体育から築かれたライフワーク	高島 規郎 15
なぎなたと大学体育	田中ひかる 17
アスリートが「語る」ということ	津田 忠雄 19
大学体育における多様性	直井 愛里 23
スポーツの魅力を伝えること	松浪登久馬 25

〈研究資料〉

高齢者の転倒予防に関する基礎的研究 —若年者における歩行速度が爪先高に及ぼす影響について—	田中ひかる, 禿 隆一, 佐川 和則, 淵本 隆文 29
大学生アスリートの喫煙について	津田 忠雄, 東山 明子 37

〈実践報告〉

Program for Sport Management of Flying Disc Competitions: (1) Ultimate Flying Disc Competitions Co-hosted with University Students	Hiroshi Oshima 49
---	-------------------------

〈集録〉

平成21年度公開講座「健康スポーツ教室」報告	高島 規郎 61
平成21年度FD報告	津田 忠雄 63
2009年第6回世界柔道科学者シンポジウムに参加して	岡田 龍司 66
平成21年度大学体育指導者夏季中央研修会	熊本 和正, 松浪登久馬 68
健康スポーツ教育センター活動報告(2009年1月~12月)	70

〈その他〉

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程	72
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会内規	73
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集内規	73
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要論文審査内規	74

Institute of Health and Sports Science

Kinki University

Osaka, Japan



近畿大学健康スポーツ教育センター

近畿大学
健康スポーツ教育センター研究紀要
第9巻 第1号

2010

近畿大学健康スポーツ教育センター

目 次

健康スポーツ教育センター研究紀要 第9巻 第1号 2010

〈特集 私と大学体育〉

サイレント マジョリティ	入川 松博	3
教育実習の思い出	大島 寛	5
通信教育：夏季スクーリング	岡田 龍司	7
近畿大学体育会バスケットボール部の指導を振り返って	禿 正信	9
最初の四年間	熊本 和正	11
集合！	佐川 和則	13
大学体育から築かれたライフワーク	高島 規郎	15
なぎなたと大学体育	田中ひかる	17
アスリートが「語る」ということ	津田 忠雄	19
大学体育における多様性	直井 愛里	23
スポーツの魅力を伝えること	松浪登久馬	25

〈研究資料〉

高齢者の転倒予防に関する基礎的研究

－若年者における歩行速度が爪先高に及ぼす影響について－

田中ひかる, 禿 隆一, 佐川 和則, 淵本 隆文	29
津田 忠雄, 東山 明子	37

〈実践報告〉

Program for Sport Management of Flying Disc Competitions :

(1) Ultimate Flying Disc Competitions Co-hosted with University Students

Hiroshi Oshima	49
----------------	----

〈集録〉

平成 21 年度公開講座「健康スポーツ教室」報告	高島 規郎	61
平成 21 年度 FD 報告	津田 忠雄	63
2009 年第 6 回世界柔道科学者シンポジウムに参加して	岡田 龍司	66
平成 21 年度大学体育指導者夏季中央研修会	熊本 和正, 松浪登久馬	68
健康スポーツ教育センター活動報告 (2009 年 1 月～12 月)		70

〈その他〉

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程		72
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会内規		73
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集内規		73
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要論文審査内規		74

特 集
私と大学体育

論 文

集 録

健康スポーツ教育センター 活動報告 (2009年1月～12月)

研究活動

論文

- 1) Kumamoto, K., Hirai, T., Kishioka, S., & Iwahashi, H.: Identification of Radicals Formed in the Reaction Mixture of Bovine Kidney Microsomes with NADPH. *J. Biochem.* 146 (4) : 571-579, 2009.
- 2) 松浪登久馬「北米先住民族」に関する文献目録(抄) <和書編>. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 8(1): 63-77, 2009.
- 3) Naoi, A., Watson, J., Deaner, H., & Sato, M.: Multicultural Issues in Sport Psychology and Consultation. *International Journal of Sport and Exercise Psychology*. In Press.
- 4) 直井愛里: スポーツ傷害における心理学. 近畿大学臨床心理センター紀要 2: 35-40, 2009.
- 5) 大島 寛: 大学体育におけるフットサルの指導に関する一考察 - 男女共習型授業の実践を通して -. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 8(1): 41-46, 2009.
- 6) 佐川和則・田中ひかる・熊本和正: 成人男女を対象とした脂肪酸化率が最大になる歩行速度の決定. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 8(1): 47-54, 2009.
- 7) 田中ひかる・佐川和則・淵本隆文: 高齢者の転倒予防に関する基礎的研究 - 女性の自然歩行における爪先高に着目して -. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 8(1): 55-62, 2009.
- 8) 津田忠雄: 「演じる」という過剰性 - スポーツ心理学における劇的視点 -. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 8(1): 27-32, 2009.

翻訳

- 1) 直井愛里訳: 心理的課題を持った選手への指導 ビーリー著・徳永幹雄(監訳) 実力発揮のメンタルトレーニング. 大修館書店: 東京, pp.320-338, 2009.

学会発表

- 1) 東山明子・津田忠雄: 大学生を対象にした喫煙意識調査 1 - 大学生喫煙者の喫煙実態と喫煙経費限界意識 -, 第4回日本禁煙科学学会, 2009年10月.
- 2) 市川雄基・谷口亮太・谷一馬・津田忠雄・東山明子: 大学生を対象にした喫煙意識調査 4 - 喫煙者而非喫煙者の禁煙についての意識の違い -, 第4回日本禁煙科学学会, 2009年10月.
- 3) Naoi, A.: Collaborative Work with Orthopedists in Psychology of Sport Injury Research. *International Society of Sport Psychology 12th World Congress*, Marrakesh, Morocco. June 17-21, 2009.
- 4) 新野弘美・田中ひかる・熊本和正・佐川和則: 成人女性におけるノルディックウォーキングの運動強度, 大阪体育学会第47回大会, 2009年3月.
- 5) 田中ひかる・新野弘美・熊本和正・佐川和則: 側対歩(ナンバ歩き)を取り入れた新しいウォーキング法の検討, 大阪体育学会第47回大会, 2009年3月.
- 6) 谷口亮太・市川雄基・谷一馬・津田忠雄・東山明子: 大学生を対象にした喫煙意識調査 3 - 喫煙者而非喫煙者の喫煙についての意識の違い -, 第4回日本禁煙科学学会, 2009年10月.

- 7) 津田忠雄・東山明子：大学生を対象にした喫煙意識調査2 -大学生の喫煙理由と非喫煙理由-，第4回日本禁煙科学学会，2009年10月。

講演・シンポジウム・研修会など

- 1) 熊本和正・佐川和則・松浪登久馬・田中ひかる・直井愛里・岡田龍司・大島 寛・高島規郎・成川輝明・村上哲男・川崎直人・掛樋一晃：アンチエイジングセンター健康増進プログラムの概要と進捗状況について。アンチエイジングセンター第2回研究発表会 2009年12月（本学38号館）。
- 2) 直井愛里：運動の継続におけるカウンセリング。平成21年度スポーツ指導者講習会（NPO 法人 日本医師スポーツ協会主催）2009年10月（大阪）。
- 3) 直井愛里：スポーツ選手へのメンタルトレーニング。第20回日本臨床スポーツ医学会学術集会 チームドクター研修会，2009年11月（神戸）。
- 4) 大島 寛：ソフトディスクを使ったフライングディスク競技の指導。貝塚市教育部青少年人権教育交流館主催。2009年11月（大阪）。
- 5) 佐川和則・田中ひかる・熊本和正：脂質酸化率が最大になる歩行速度の決定，第2回アンチエイジングセンター第2回研究発表会，2009年12月（本学38号館）。
- 6) 田中ひかる：ポールウォーキングの歩行訓練への応用，介助・リハビリ機器関連シーズ・ニーズ発表会，2009年9月（大阪）。
- 7) 田中ひかる・熊本和正・新野弘美・田邊 智・伊藤 章・佐川和則：体重免荷が必要な対象者に対する生活習慣予防のための新しい運動の提案。第2回アンチエイジングセンター第2回研究発表会，2009年12月（本学38号館）。

コーディネーター・座長

- 8) 津田忠雄：性格別禁煙支援方法，日本禁煙科学学会心理分科会，2009年10月（金沢）。

社会的活動

- 1) 平成21年度 近畿大学公開講座「健康スポーツ教室」：平成21年7月20日（祝）午後1時30分～午後4時 近畿大学記念会館（卓球教室、バランスボール体操、フィットネスチェック、キッズコーナーなど）
- 2) 近畿大学公開講座2009 「アンチエイジングセンター第3回市民公開講座」：平成21年10月10日（土）午前11:00～午後4時 近畿大学11月ホール（骨密度の測定コーナーを担当）

外部資金・学内研究助成金獲得

- 1) 平成21年度科学研究費補助金・若手研究（B）（課題番号：20700511）：受傷選手の楽観性が影響を及ぼすコーピングスキルと心理スキルトレーニング（研究代表者 直井愛里）
- 2) 平成21年度学内研究助成金・奨励研究助成金（課題番号：SR04）：スポーツ医学から考察した受傷選手の心理的反応と心理スキルトレーニングの有効性（研究代表者 直井愛里）

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程

1. 本誌に寄稿できるのは近畿大学健康スポーツ教育センター専任教員に限る。但し、編集委員会が必要と認めた場合は専任教員以外にも寄稿を依頼することができる。
2. 寄稿内容は、体育学研究領域における総説、原著論文、研究資料（報告）、実践報告、研究・教育上の問題提起、その他とし、完結した未発表のものに限る。
3. 原稿掲載の時期は、編集委員会において決定する。
4. 本誌に掲載された原稿は原則として返却しない。
5. 原稿はA4版400字詰横書き原稿用紙にワープロまたはインク書きとし、本文はひらがな現代かなづかいとする。外国語をかな書きする場合はカタカナとする。
6. 原稿は原則として研究・教育上の問題提起などは図表を含めて上記原稿用紙20枚以内とし、総説、原著論文、研究資料（報告）、実践報告は50枚以内とする。
7. 図・表・原稿は必ず、A4版以内の大きさとし、直接印刷原稿のとれるよう黒インクによりトレースするか、数表文字はタイプ打ち、または活字を使用すること。写真は白黒写とし、方眼紙は薄藍色のものを使用する。
8. 図・表・写真にはそれぞれ通し番号とタイトルをつけ、1枚毎に台紙または原稿用紙にはり、本文とは別に番号順に一括する。また、必ず本文の図・表挿入箇所を赤インクにより指示すること。
9. 引用文献は、原則として、本文の最後に著者名をABC順に一括し、雑誌の場合には、著者名（発行年）論文名・誌名・巻（号）：ページとし、単行本の場合は、著者名（発行年）書名（版数、ただし初版は略）発行所：発行地、引用ページ（p.またはpp.）の順に記載する。なお、引用および注記の仕方の詳細は、日本体育学会発行、体育学研究「投稿の手引き」を参照すること。
10. すべての原稿には表題、所属、氏名の欧文を必ず添付すること。但し、原著論文については200語以内の欧文抄録と、その和訳を添付すること。
11. 原稿はコピーを含め、合計3部と原稿がセーブされたフロッピーディスク1枚を提出すること。また、論文内容が主として関係する研究領域と論文の分類を明記すること。
12. 本文、そのほかに使用した欧文はすべてタイプ打ちか活字を使用すること。
13. 共著の場合には、著者名とその所属を明記すること。
14. 共著者として氏名を出すものは、その論文の全般にわたり責任をもって応答できる共同研究者に限る。
15. 本紀要に掲載された論文の著作権は、近畿大学健康スポーツ教育センターに譲渡したものとする。ただし、事前に申し出があれば、筆者自身が自分の論文を利用することができる。

16. 原稿は近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会に提出すること。
17. 本規程に反しているものは掲載しない。
18. 本規程の改定には健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。

付則：本規程は2002年1月1日より施行する。

付則：本規程は2008年4月1日より施行する。

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会内規

1. 健康スポーツ教育センター規程第7条により、健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会（以下委員会）を置く。運営は本規程により行うものとする。
2. 委員会は近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要<英文名>（The Research Bulletin of Health and Sports Sciences）の編集に関して次の任務にあたる。
 - (1) 編集発刊に関する一切の業務
 - (2) 寄稿された論文の審査依頼、原稿の分類および原稿掲載可否の決定
 - (3) その他、編集に関する事項
3. 委員会は健康スポーツ教育センター会議により選出された委員若干名をもって構成する。委員の任期は2ヶ年とし、再任を妨げない。
4. 委員会に委員長をおく。委員長は委員の互選により選出する。
5. 論文審査のための論文審査委員は委員会の推薦により健康スポーツ教育センター長がこれを委嘱する。
6. 論文の審査規程および編集に関する事項は委員会において別に定める。
7. 委員会は審査担当者の評定に基づいて原稿の取捨を決定する。
8. 委員会の召集、開催については委員長が行う。
9. 本規程の改定には、健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。

付則：本規程は2002年1月1日より施行する。

付則：本規程は2008年4月1日より施行する。

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集内規

1. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要は、年1回発行するものとしその時期は3月1日とする。
2. 本研究紀要に掲載する論文は原則として次の通りとする。
 - (1) 総説 (2) 原著論文 (3) 研究資料(報告) (4) 実践報告 (5) 研究・教育上の問題提起
 - (6) その他

3. 掲載された論文の筆頭著者には別刷り 50 部を進呈する。
4. 本規程の改定には健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。

付則：本規程は 2002 年 1 月 1 日より施行する。

付則：本規程は 2008 年 4 月 1 日より施行する。

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要論文審査内規

1. 本規程は、健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会規程に基づくものとする。
2. 編集委員会に寄稿された原稿は、寄稿者の希望する研究領域を参考として、論文審査委員の審査を受けるものとする。
3. 寄稿者あるいは共同研究者は、その論文の審査委員になることはできない。
4. 担当論文審査委員は寄稿論文が健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程に示された基準に沿っているか否かを検討し、掲載の適否を概要 3 段階によって評定し、その結果と根拠を編集委員長に報告する。
5. 論文審査の期間は原則として 3 週間以内とする。
6. 審査委員が論文審査に困難を生じた場合には審査結果の報告書に次の事項を記入し、論文受領後 1 週間以内に編集委員に送付する。
 - (1) 困難な理由
 - (2) 他に論文審査委員として適当と思われる人
 - (3) その他の意見
7. 本規程は近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集規程 2 の総説、原著論文、研究資料（報告）、実践報告、研究・教育上の問題提起、その他、の審査に適用する。
8. 本規程の改定には健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。

付則：本規程は 2002 年 1 月 1 日より施行する。

付則：本規程は 2008 年 4 月 1 日より施行する。

編集後記

今年度の研究紀要の特集では、「私と大学体育」というテーマで、健康スポーツ教育センターの各先生方に執筆していただきました。この特集記事では、大学体育について、ここに思っている事を自由にまとめていただきましたので、自らの経験、現在の指導などについて、各教員の大学体育の軸が紹介されていると思います。また、論文では、オリジナリティーのある3本の研究・報告を寄稿していただきました。論文審査に際して貴重なコメントをくださいました学内、学外の審査委員の先生方には、編集委員一同、心から感謝を申し上げます。そして、初めての編集活動で不安を感じていた私を支えてくださいました編集委員の先生方にも御礼を申し上げます。冬期オリンピックを観戦しながら、一人のアスリートがオリンピックで実力を発揮するには、どれくらいの人達が裏で支えているのか、様々なことを想像しながら編集作業をしておりました。この健康スポーツ教育センター研究紀要発行にご尽力いただいた皆様に改めて感謝を申し上げます。

(直井 愛里)

特集記事および論文の執筆者（五十音順）

入 川 松 博 准 教 授
大 島 寛 准 教 授
岡 田 龍 司 准 教 授
禿 正 信 准 教 授
熊 本 和 正 准 教 授
佐 川 和 則 教 授
高 島 規 郎 教 授
田 中 ひかる 講 師
津 田 忠 雄 准 教 授
直 井 愛 里 准 教 授
松 浪 登久馬 講 師

紀要編集委員会（五十音順）

委 員 入 川 松 博（副委員長）
熊 本 和 正
津 田 忠 雄
直 井 愛 里（委員長）
松 浪 登久馬

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 第9巻第1号 2010年
(通巻第9号)

平成22年3月1日 印刷

平成22年3月1日 発行

発行人 掛 樋 一 晃

発行所 近畿大学健康スポーツ教育センター

〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号

印刷所 近畿大学 管理部 用度課（出版印刷）

KINKI UNIVERSITY

3-4-1 Kowakae, Higashiosaka, Osaka 577-8502, Japan
